

首里杜まちづくり推進協議会 第2回協議会 議事要旨

日時：2023年3月24日（金）14:00～16:00

場所：首里公民館 ホール

■あいさつ(首里まちづくり研究会 理事長 伊良波)

今年度協議会が実現したことに、構成員および設立に関わった方々に感謝する。

協議会では、首里のまちづくりに関する様々な協議を行ってきたが、徐々に関係団体からの活動報告等も上げられるようになり、意見交換の場として環境が整いつつあると感じている。また、来年度には部会の設置が検討されており、より細かな議論ができるようになることが期待されている。次年度に向け、本日の協議会を有意義なものにしていきたい。

議事 1. 年次報告

全会一致で合意を得た。

議事 2. ロードマップ(首里杜地区整備計画事業)進捗管理

- 遅れや未着手の事業に関しては、もう少し詳しく説明を聞きたい。(地域 城西小まち協)
 - 「No.17 円覚寺三門復元工事」は遅れの報告を受けている。(事務局 (県))
 - 「No.26 乗合タクシー等のデマンド交通による移動手段の提供」は、計画では令和7年から事業開始を予定しており、現時点で事業が未着手であることが理由である。(那覇市都市計画課)
 - 「No.7 首里金城地区細街路整備事業」については、その他街路事業との予算配分の事情により遅れている。(那覇市 道路建設課)
 - 「No.13 歴史文化基本構想等の策定検討」については、個別の国指定文化財の保存活用計画の策定の段階であり、全体的な構想の策定には取り掛かれていないため未着手。各事業の詳細については別途整理している。(那覇市 文化財課)

議事 3. 取組体制と活動テーマ(R5 年度部会設置案について)

<部会・活動テーマについて>

- 本日提案された部会名称や活動テーマ決定時期は、地域意見を尊重してもらった経緯による。(事務局 (地域))
- 本協議会では部会設置までを承認いただき、その活動テーマについては、R5年度の第一回協議会で決定とお考えいただきたい。部会を設置するにあたり、部会の成果として県・市・地域団体が共有する目標については、十分な議論を重ねたい。例えば SDGs や QOL の指数や、交通の改善指標などについて、構成員それぞれの知恵を振り絞り、テーマ活動と同様に（新年度当初の）2カ月の間で議論を重ねたい。(事務局 (地域))
- 部会の分け方、名称、仕組みについて賛成である。(学術 (越智、麻生))
- テーマ活動については、地域住民が関心を持てるよう、暮らしに根付いた内容であることが重要。(学術 (越智))
- 将来的には、教育機関や県外自治体、その他まちづくり団体との交流・意見交換も実施できるとよいと思う。(学術 (越智))

- テーマ活動の検討は、短期間で共通目標を設定することは大変かもしれないので、2 カ月で決めきるのではなく、協議会・部会にて協議を重ねながら決定する仕組みでもよいと思われる。(学術 (越智))
- テーマ活動の協議内容については、どのようにロードマップに反映されるか。(学術 (麻生))
 - 協議会要綱上、協議会にて十分な検討がされた内容については、ロードマップへの反映が可能としている。(事務局 (県))
- 部会の役割とは、県・市の各事業をテーマ毎に細かくチェックすることだと考える。部会では協議会よりも掘り下げた議論を行い、個別事業の進捗を調整する場という位置づけが望ましいと考える。(学術 (池田))
- 活動テーマについては、ロードマップの重点連携事業の中でも、特に住民意見を反映すべき内容が主軸になると考える。(地域 (伊良波))
- 新たな協議会構成員として、那覇市の福祉関係部局、教育関係者の参加を要望したい。(地域 (伊良波)、事務局 (地域))

<部会運営・事業費に関して>

- 部会のテーマ活動の実施にあたって、運営主体、予算の確保についてはどのように考えているか。(学術 (越智、池田))
 - 活動案が多く出た場合には、事務局で優先度を検討した上で各主体が予算確保や事業化に向けた取組みを行う形になるのではないかと考えている。(事務局 (県))
- 首里城復興基金をこのような活動に活用することは可能か。個別事業から捻出できる場合も考えられるが、部会独自の予算確保が必要だと考える。(学術 (池田))
 - 令和4年4月から募っている首里城未来基金については、協議の上、事業を展開する際に活用が可能である。協議会関連の運営費には基金は使えないため、単費での負担やソフト交付金の活用を検討したいと考えている。(事務局 (県))

議事 4. 報告①首里社地区交通・観光マネジメント計画(骨子案)について

- 「No.32 サステナブルツーリズム、レスポンスブルツーリズムの推進」にて、次年度には「周遊促進対策の検討」、最終的に令和6年度に「周遊環境整備計画」を策定するという理解でよいか。(那覇市 (浦崎))
 - 令和6年度には、マネジメント計画の実行段階としてサイン及び地域資源の整備に着手する予定であり、計画を策定する意図はない。資料中の表現については、周遊環境の整備と言い切ることが難しかったため、周遊環境の整備計画と示している。(事務局 (県))
- 那覇市でも、周遊に係る観光マネジメントの取り組みに参画する中で、周遊の促進及び環境整備に寄与する事業展開を進めていきたい。(那覇市 (浦崎))
- 部会のテーマ活動において観光を前面に出さないとした場合、当計画の周遊を促進していくという内容と齟齬が生じてしまうことが懸念される。(学術 (越智))
- 当計画と部会及びテーマ活動についても足並みをそろえていくことが大切だと思われる。将来的に協議会の議論を反映しやすくするためには、計画をある程度緩く設定しておくことも必要と考える。(学術 (越智))
- 当計画の内容について、今後の部会の意見も反映できるようにしていただきたい。(地域 (伊良波))

議事 4. 報告②沖縄県景観向上行動計画の改定等について

(意見なし)

議事 4. 報告③龍潭線交差点安全対策について

- 資料でのイメージよりも深みのある色を含めたサンプルを数種類選定し、現地確認を実施した上で、最大限景観に配慮した色を選定していただきたい。池端交差点では2ヵ所ではなく、3ヵ所の歩道の舗装を実施していただきたい。また、横断歩道のゼブラ模様の範囲内での舗装についても検討していただきたい。(地域 (伊良波))
 - 事例等を踏まえ、可能な限り落ち着いた色を選定に努める。事後検証を前提に速やかに施工したい。(沖縄県 南部土木事務所・街路公園班)

議事 4. 報告④松崎馬場の植栽計画について

- 植栽の植え替え期間は、龍潭の利用についてはどのように制限されるのか。(地域 城西小まち協)
 - 伐採植樹については、段階的な着手を予定しているが、工事期間中はどうしても通行止めの区間が発生する。(事務局 (県))
- 施工後、周遊への寄与はどのように考えているのか。(地域 城西小まち協)
 - 現在対応中の石積み復旧工事など修復作業が完了次第、都市公園課と南部土木事務所周遊の促進のための整備を実施する。(事務局 (県))

議事 4. 報告⑤首里城公園城郭等屋外照明設置工事について

- 照明は過度に明るすぎず、地域が望む明るさを確認しながら設定していただきたい。またカラフル過ぎる照明も避け、風格ある照明にしてほしい。首里の理想的な景観として、月や星が美しく見える環境がふさわしいと考えているので、可能な限り低い位置への照明設置が望まれる。(地域 (伊良波、いのうえ))
- 資料中の「生活リズムの変化」とはどのような意味か。(学術 (越智))
 - ハレの日等にはそれに応じ、色味や濃淡を変化させた表現も可能だという意図である。(事務局 (県))

その他

<地域会合での意見集約の共有>

- 地域として、今後の協議会活動では、ロードマップの各事業の進捗状況評価及びその根拠、予算の状況等についてより掘り下げて把握したい。また、行政内横軸の連携可能性についても協議したい。(事務局 (地域))
- 部会の成果として、県・市・地域が共有する目標については、十分な議論を重ねた上で可視化していきたい。例えばSDGsやQOLの指数、交通の改善指標、また、それらと利用者、交通事業者、行政等へのセグメントなどが考えられる。(事務局 (地域))
- 沖縄県立芸術大学と本協議会の連携が望まれる。協議会への参加や、彼らが思うまちづくりに関する課題を抽出する機会の設置も是非検討いただきたい。(事務局 (地域))
- 地域からは、首里公民館の建替えについて検討いただきたいという意見もある。地域住民活動拠点を新たに整備することで、地域団体活動がより活性化し、ロードマップの項目「(3)観光地マネジメントの推進」に寄与すると考えている。(事務局 (地域))

- 地域の会合にて、今後の協議会活動についての活動指針が3つ提案された。1つ目「行政の取り組みが地域住民の共感と賛同を得るよう、共に協同で進めていきたい」、2つ目「付度のない、地域組織としての意見を常に言える間柄でいたい」、3つ目「まちづくり事業に対し、住民の意識を高め、醸成していくものに寄与貢献していきたい」としている。(事務局(地域))

■閉会あいさつ(那覇市都市みらい部副部長 浦崎)

本協議会において、令和4年度は設立の初年度として活動が行われ、本日第2回協議会においては、ロードマップの進捗状況や、次年度の活動計画が示されている。

特に次年度からは、「景観・歴史文化部会」「暮らし・交通環境部会」の設置が決定されており、各部会にてテーマ活動を設定し、各事業主体及び関連するメンバーにて連携体制を構築し、運営されることは意義があることだと感じている。本市としても、ロードマップの各事業の実施や、地域意見の把握などに部会を活用し、協働による首里杜地区のまちづくりを推進していきたいと考えている。

以上